

富山日報

北國の此頃の氣候陰鬱な極
めたしは無い、空気の濕潤、
色彩の暗澹殆んど云ふに堪へ
ぬ、而も雨の、小さく細か
に刺さるるで無く、太く強く
頭から壓迫するのだから、
切れない北國は斯くして退屈
小心な人物ばかり出来るので
あらう(拾遺)

四ヶ月間大字西松瀬村に在る舊松瀬校舎五聯隊分には杉原村字井田村新村治郎以舉行したるが出席者百四十四名竹内校長に新築中なりし高岡銀行支店は廿三日答返指定せり

輪漕井ヨ子方▲上條、東三郷、西三郷の薩摩屋、徳花等あり盛會なりき

時間居るわけになつて居まして、年中特色のある其調子が、私の周囲をついて廻るんです。

どう特色があるのか、一口には申上げられませんが、まあ強て申せば矢張り蟹江式でも申すんです、津田塾は御承知の通り、華族女学校や虎の門の女学館など、さう云つた学校の卒業生がおもな生徒なものですから、お召縮編だ紋羽二重だ立派な服装ばかりの中に、蟹江さんは云つたら、僅かばかり糸の交つた田舎臭い手織の着物に、祖母さんのお譲りよろしくの古臭いきし織のやうな羽織へ背絹の裏なんぞつけたのを着てらっしゃるんです。勿論、華族嬢や富豪の令嬢ばかりではない、私共平民の娘

蟹江未亡人

蟹江さんが文藝者の遠征試験に合格して、中等英語の師の発状を御得なすつた如何にも御稀特なやうですけれど、あの方としては當然なことも知れません。

女学校へ御進ひなさうと云ふ御子様方が御有りなさる御年齢格好で居て、御自分も専門の學校に入つて、醫學を研究なさうと云ふんですもの、如何したつて普通通問なみの女やありません。

初めてお目に掛つた時から、一寸一風變つた方だと思ひましたつけ、晩學と云つたつて、津田先生の英學塾では随分四十歳した連中も深山生徒の中に居て、年齢から云つたら蟹江さんなら、さう目に立つて云ふ方がありませんでした。

ですけれど其處いらの調子が、何かしら違つて居るんです、私は蟹江さんと同じくアラマで、教室でも控所でも始終同じ

も多少は交つて居るんですから、安鈴仙の連中は蟹江さんの外にも幾らかないではありません、併し其中でも蟹江さんのは何處か特色があるんです。

「背絹の裏なんて随分奇抜だわね、變な配合の好きな方！」斯うした時は至る處で聞かれました。

蟹江さんの組でも文藝の組でもよくお出来の方で會話とリーディングは最初は一寸とお上手な方でないさうに思はれましたけれど、日を追ふて其方にもお馴れなされる、蟹江さんはいつの間にか平凡な生徒ではなくおなりました。

蟹江さんが文藝者の遠征試験に合格して、中等英語の師の発状を御得なすつた如何にも御稀特なやうですけれど、あの方としては當然なことも知れません。

女学校へ御進ひなさうと云ふ御子様方が御有りなさる御年齢格好で居て、御自分も専門の學校に入つて、醫學を研究なさうと云ふんですもの、如何したつて普通通問なみの女やありません。

初めてお目に掛つた時から、一寸一風變つた方だと思ひましたつけ、晩學と云つたつて、津田先生の英學塾では随分四十歳した連中も深山生徒の中に居て、年齢から云つたら蟹江さんなら、さう目に立つて云ふ方がありませんでした。

ですけれど其處いらの調子が、何かしら違つて居るんです、私は蟹江さんと同じくアラマで、教室でも控所でも始終同じ

富山日報

小天地

北國人が自然の饋送を感ずる時
期はこれらだ、まづ短途を
よして、風の中野の中を大
るの様に飛び回る倦憊は無く
ちやなりませぬわい、學生諸
君は殊に大に休養を感にして
頂きたいものでや

ハクション迄書きこめてありますよ、
だつて本當に細かく何でも書きこめてい
らつしやうなんだもの」
生徒にはこんな陰口もきかれました
「一体まあ如何してそんなに御勉強なさ
るの、御卒業後の目的は何？」
最初の程冷かし半分こんなぶしつけ
の質問を、而も向つてする人もありまし
たが、
「別にこれと云つて卒業後の目的も御
座りません、けれど富江が折角富山な書
籍を買ひ込んで、残して行つて呉れまし
たのに、其愛讀した書物一冊私に讀めな
いやうでは、如何にしても残念です、
申譯もありませんから、さうかして早く
讀めるやうになり度いと思ひましてねえ
それに私は兒女達を大さしなればなら
ん責任もありますし、生活の方事もあ
りますから、あまり呑氣にもしてられま
せんもの」
とかう富江さんの眞面目な御答を聞か
されて、もつ二度と失禮な事を云ふ者も
なくなりました。

蟹江博士未亡人

かみよ女

これに其勉強なごも、云つたらあり
ませぬ、教授ではじつと先生方の御顔を
見据えるやうにして、先生の御眼の動く
通りに蟹江さん御自身の御眼もついて廻
るに云つた有様で、本當に熱心にお講義
をお聞きなさる、生徒控所ではまた、さ
んなに皆なが面白おしやべりをして、
賑やかに騒いで居ても、蟹江さんは隅つ
このベンチに腰掛けて、知らん顔をして
御勉強なんです。
「蟹江さんのノートにや蛇度先生方の

全く開かれざる所なきが如くなり、富山日報の普及を計る事(一)農業上の除害、農水の使用、元備し之を擴張するは生産を増進衛生の進歩副業の關係氣候風俗の關り從來養蠶製紙等の獎勵せられたる如きは本報農業者の發達を害する事太

富山日報

小 天 地

ハレー星が昇る驚きしたのが、前兆であるまいが洪水が出た。葡萄の革命に次いで、黒四番の革命、メズヘルトが、亞利加で遊樂した歸りに、數十隻の軍艦を出迎はしめた。さあ、半年を経過せぬ中に、あの失敗、所で明日は又水屋のいっくん坊、さしこの進化、た前兆は何か(中)

「たて、横段らの石碑で、蟹江義丸の墓に刻んだ其横に、同じく操子と私の名前も刻んで茶を入れて下さいな。蟹江さんの此時の此言葉は、今以て忘れることが出来ません、蟹江さんは全くお偉い御座いますわねえ。」

蟹江博士未亡人

其の蟹江さんは大森のさる家へ家庭教師として住み込んで、其家の命題が學校へ行つてらつしやる其間、毎日、津田塾へお遊びなでして、で蟹江さんのお嬢さんと別居の御様子で、お茶の水の袴をつけた可愛いのが、ちよいちよい母さんを訪ねて来へいらつしやるのでした。

だもつと蟹江さんが私共の胸にきつい印象をお置きなすつたのは、夫婦の一件からです。

或日、石屋三云ふのが蟹江さんを學校へ訪ねて来た事がありました。其時、丁度相悪く他に來客があつて、學校の應接室が空つて居た爲め、石屋を控所の方へ通す事になりました。私共一同の居る控所で蟹江さんは石屋とお話なさる。